

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成30年4月17日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立上之郷小学校 第6学年、全児童
実施児童数（ 29人 ）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語及び算数及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容（A問題）と、それらを活用する力などに関する内容（B問題）とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査（以下「児童アンケート調査」という。）を実施する。

(3) 学校の取組に関する調査

調査対象の児童が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査（以下「学校アンケート調査」という。）を実施する。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じ状況であるが、全国と比べて上位層が少ない。
平均正答率（本校 76／泉佐野市 67／大阪府 68／全国 70.7）

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じ状況にあるが、全国と比べて上位層がやや少なく下位層がやや多く分布している。
平均正答率（本校 60／泉佐野市 51／大阪府 52／全国 54.7）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語 A	特 徴 が み ら れ た 設 問
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことに課題がある。 5 書いた文章を読み直す（春休みの出来事） (34.5/35.5) ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。 8（エ）文の中で漢字を使う（かん理） (48.3/65.0)	

国語 B	特 徴 が み ら れ た 設 問
【調べたことやまとめたことについて討論などに関する事項】 ○質問の意図を捉え適切なものを選択することができる。 1 適切なものを選び書く (100/82.5)	【事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることに関する事項】 ○目的や意図に応じ内容の中心を明確にして、詳しく書くことに課題がある。 2 □に入る内容を、あとの条件に合わせて書く (6.9/13.5)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
新聞を読んでいますか	6.8	19.9	○	12.1
調査問題の解答時間は十分でしたか(国語)	82.8	84.7		1.9

○社会のことがらや自然のことがらに興味を持っている児童が多い。

○自分の考えを発表する機会に、考えがうまく伝わるよう工夫して発表したと思っている児童が多い。

○自分の考えをまとめたり、発言の意図を捉えて、考えを広げたり深めたりすることができていると思う児童が増えている。課題に対しての取組の効果が出ているのではないかな。

○国語Aの解答時間が足りていない児童が多い。

○条件を満たして文章を書くということが苦手である。

○無回答は全国・大阪府より低いので何らかの回答をしようと努力をしている。

○学習指導要領の領域等・評価の観点・問題形式ともに大阪府の平均より高い結果となった。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国と比べ上位層がやや少なく、中位層がやや多く分布している。

平均正答率（本校 70／泉佐野市 62／大阪府 63／全国 63.5）

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国に比べるとやや低位層に偏りがある。

平均正答率（本校 58／泉佐野市 48／大阪府 51／全国 51.5）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数A	特 徴 が み ら れ た 設 問
【数量や図形についての知識・理解】 ○小数の除法の意味について理解することに課題がある。 2 答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ。 (24.1/39.9) ○直径の長さや円周の長さの関係について理解することに課題がある。 7 (2) 円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さは何倍になるかを選ぶ。 (55.2/55.6)	○異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方について概ね理解できている。 4 (1) 面積がそろっている㊦と㊩の二つのシートの混み具合について、正しいものを選ぶ。 (96.6/87.8) ○180° や360° を基に分度器を用いて、180° よりも大きい角の大きさを求めることが概ねできている。 5 (2) 分度器の目盛りを読み、180° よりも大きい角の大きさを求める。 (82.8/58.5)

算数B	特 徴 が み ら れ た 設 問
○1 (1) 条件に合う図形を見出すことが概ねできている。 (82.8/71.7) ○5 (2) 規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断することが概ねできている。 (79.3/66.5)	◇3 (1) 3 (2) 棒グラフと帯グラフから読み取る問題において考えをまとめる力や説明する力に課題がある。 (17.2/20.7) (17.2/23.9)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか	82.4	64.0	○	18.4
算数の授業の内容はよく分かりますか。	100	83.4	○	16.6
算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。	100	74.3	○	25.7
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。	89.6	78.4	○	11.2
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。	93.1	79.5	○	13.6
算数の授業で問題の解き方がわかるようにノートに書いていますか。	79.3	85.8	◇	6.5

○算数の学習について意欲的に取り組むことができている。

○課題に対して自分の力で問題を解こうとする姿勢が見られる。

○問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書くことについて意識が高く、より充実したノート指導が求められる。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

1. 全体の傾向

- ・平均正答率の中央値が全国に比べると低い。上位層が少なく、中間層が中間地点に多く分布している。
平均正答率（本校 68／泉佐野市 57／大阪府 57／全国 60.3）
- ・主として「活用」に関する問題より、主として「知識」に関する問題の方が平均正答率は高かった。
主として「知識」に関する問題（本校 83／泉佐野市 77／大阪府 75／全国 78.0）
主として「活用」に関する問題（本校 64／泉佐野市 53／大阪府 53／全国 56.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

理科「知識」	特 徴 が み ら れ た 設 問
【物質】 ○実験器具の使い方の理解に課題 4（1）ろ過の適切な操作方法を身に付けているかどうかをみる (55.2／71.1)	

理科「活用」	特 徴 が み ら れ た 設 問
【生命】 ○観察場面の保証の重要性について理解できている 1（1）安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想できるかどうかをみる。 (100／82.1)	【地球】 ○実験結果を基にして考察し、判断した根拠となる事実を的確に記述することができる 2（3）より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できるかどうかをみる。 (48.3／20.1)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
理科の勉強は大切だと思いますか	96.6	85.4	○	11.2
理科の授業の内容はよく分かりますか	100	89.4	○	10.6
理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えていますか	75.8	64.7	○	11.1
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つと思いますか	93.1	72.9	○	20.2
将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	34.4	26.1	◇	8.3
理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか	72.4	54.5	○	17.9
理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	82.7	75.2	◇	7.5
理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか	89.6	81.8	◇	7.8
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	93.1	68.1	○	25
5年生のとき、理科の授業がおもしろいと思いましたか	79.3	87.5	◇	8.2
5年生のとき、理科の授業を受けた後に、習ったことに関わることで、もっと知りたいことができましたか	86.2	75.1	○	11.1
調査問題の解答時間は十分でしたか	100	90.1	◇	9.9

○無回答率が全体的に低く、回答意欲がみられる。

○生命・地球領域では全国平均を上回っており、物質・エネルギー領域は平均的である。

○科学的な学びに向かう力が高く、自分の考えをもつことができている児童が多い。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。（例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない）

また、それ以外の質問は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5%以上差のあるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに、下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本 校 < 本 校 回 答 率 / 全 国 回 答 率 >
【家庭生活の様子】	○規則正しい生活を送ることができている。 ○放課後や週末、家族や友だちと過ごすことが多く、テレビやゲームなどでのつながりが多い。 ○地域との関わりが多い。	(7) 朝食を毎日食べていますか <89.6/94.5> (8) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか <82.8/77.0> (9) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか <93.1/88.8> (16) 放課後に何をして過ごすことが多いですか (17) 週末に何をして過ごすことが多いですか (19) 地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか <100/74.4> (20) 今住んでいる地域の行事に参加していますか <75.8/62.7>
【家庭学習の様子】	○宿題や授業の復習・予習を積極的に行っている。 ○読書をする時間が少ない。	(11) 家で、学校の宿題をしていますか <100/97.1> (12) 家で、学校の授業の予習・復習をしていますか <75.8/62.6> (13) 家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか <82.7/69.9> (15) 普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしめますか 全くしない <55.2/18.7>
【学校での学習の様子】	○課題解決に向けて自分の考えをまとめ、発表することができる。	(55) 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか <82.8/76.7> (56) 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか <72.4/61.0> (57) 学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか <93.1/77.7>

本校の取組

◎これまでの取組

本校は「ことばの力を高め言語活動の充実のある授業づくり」を研究テーマに国語科を土台として児童のことばの力、問題文を読み取る力を高め、主体的・対話的で深い学びにつながる聞く力・話す力・書く力を含めた表現力の育成をめざしている。

基礎基本の定着に係る取組では、全教室の前面の掲示物をユニバーサルデザインの観点から減らすよう統一したり、学習規律の徹底として、チャイムと同時に授業が始められるよう共通した意識をもって取り組んでいる。

基礎・基本の習熟として、朝の学習の時間に、週単位で国語と算数を交互に実施し、漢字や計算の他、既習事項の定着を図る問題や、自分の考えを簡単にまとめる練習や説明を書く練習をしている。その際、大阪府の「ことばのちから」プリントも活用し、「ことばの力」を高めている。また、授業の初めの時間には、児童に意欲をもって参加できるように前時の復習や既習事項を確認する時間も設けている。

学び合う場面の工夫としては、授業内で効果的なペア・グループ学習を取り入れたり、算数科での単元に応じた分割授業や、ＴＴでの授業を行っている。

家庭学習の充実に向けては、家庭学習ノートを全児童に配付し、テレビを消して家庭学習に集中できるように各家庭に協力を求めている。また、「めあて」「まとめ」「ふりかえり」のある授業づくりを全教職員で研究し、児童が主体的・対話的で深い学びができる授業展開の学びを進めている。

◎これからの取組

１．国語科において

- ①「読む」の領域では、特に条件が２つ以上あるときなどで問題文を読みとることができず、何が問われているか読み取れていない児童がいる。問題文を読む際は問題文を最後まで意味を考えながら読む習慣をつけさせていきたい。また、問題で問われていることに注目し、作者の気持ちを考えて読むように指導していきたい。
- ②「書く」領域では、書く力を身に付け、自分の考えを書く習慣を児童に身に付けさせていきたい。そのために、本校で行っている授業の流れ（「めあて」「まとめ」「ふりかえり」のある授業）の中での「まとめ」や「ふりかえり」の場面を大切に、「書き方の型を示す」「字数を指定する」「キーワードをいくつか示すなどの条件提示」などの工夫を入れながら書かせていきたい。また、国語科の単元のみならず、図書の時間の中で、自分が選んで読んだ本の要約をさせ、それを説明できる力を高められるような取組を進めたい。記述問題では誤答に対してはどこが間違っているのか気付かせるように説明するとともに、具体的にどのように考えればよいかの個別指導も必要である。

２．算数科において

- ① 見通しを持って考えることに課題が見られる。見通しを持てるために既習事項を振り返り・確認したり、問題解決の筋道を説明する時間を授業の初めにとるなど授業展開の工夫をしていきたい。
- ② 数学的な考え方で、特に複数の情報やグラフから問題に即して答えることに課題が見られる。問われていることを理解し、複数の情報から必要なことを取り出す練習も授業の中で取り入れていきたい。また、他教科でもグラフの読み取りについて丁寧に指導していく必要がある。
- ③ 考える力やことばの力を高めるために、答えだけではなく、答えにいたる理由を言葉や式を用いてノートなどに自分の考えを書く機会をこれまでよりも取り入れたり、子どもたちに学習したことを使って問題を作らせ、解くなどのペア学習やグループでの学習も進めていきたい。

3. 理科において

- ①実験結果から考察し，その内容を記述することに課題が見られる。考察する場面では，「キーワードを示して文章化する」「ペア・グループで考察を練り上げる時間を有効的に取り入れる」など，授業展開を工夫して考察の力をつけていく必要がある。
- ②理科用語や実験道具の使い方について，引き続き丁寧に指導していく。
- ③結果を見通して実験を構想する力をつけるために，ただ，実験方法を指導するだけにとどまらず，ものづくりの時間や実験方法を考える場面をより大切にしていきたい。